

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)茨木ケアセンターラカール新築工事	階数	地上5F
建設地	茨木市太田東芝町	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	112 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2019年8月8日
敷地面積	2,000 m ²	作成者	木本 朱理
建築面積	1,187 m ²	確認日	2019年8月8日
延床面積	4,235 m ²	確認者	登田一範



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 78% (138 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 78% (92 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 78% (46 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	施主要望である、入居者一人一人に合った生活が送れる介護サービスの提供ができるようプランニングを行うとともに、地球温暖化に配慮した建物となるよう計画した。	その他 特に無し。
Q1 室内環境	内装仕上材・合板類・緩衝材・内装下地材・内部建具及び接着材はシックハウス対策仕様として全てF☆☆☆☆品を用いた。	Q2 サービス性能 個室の床面積を10㎡以上とし、利用者の快適性向上に留意し計画した。
Q3 室外環境(敷地内)		特に無し。
LR1 エネルギー	省エネルギー法の基準に基づき、高エネルギー効率機器の採用を積極的に行った。	LR2 資源・マテリアル 特に無し。
		LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 抑制に努めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0068

Osakafu・新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	(仮称)茨木ケアセンターラガール 新築工事					
		建設地	大阪府茨木市太田東芝町					
		用途/区分	病院					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					4		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.8	4	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.7	5	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.4	4	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								